



FunaGO ! 新聞

発行所
チーム ふなGO!
〒100-8962 東京都千代田区
永田町2-1-1 参議院議員会館302
Tel:03-6550-0302
Fax:03-6551-0302
yasuhiko_funago@sangiin.go.jp

当選1年 国会を動かす!

昨年7月の参院選で、全国比例特定枠で立候補し、初当選してから1年。憲政史上初のALS国会議員となった船後靖彦は、当事者の立場から、当事者の声を国会に届け、数々の実績を残した。この1年間を振り返る。

国会のバリアフリー化後に続く人のために
憲政史上初のALS議員となった船後にとって国会にはいくつもの壁があった。例えば、

国会のバリアフリー化
後に続く人のために
憲政史上初のALS議員となった船後にとって国会にはいくつもの壁があった。例えば、



山本代表、木村議員とともに、これからも

困っている人の声 国会で発信、改善 師の支援策拡充!
◆日本人学校の派遣教師の支援策拡充!
船後は、障害に関わる課題以外にも、積極

い。声を出せない船後には、意志を伝えるため、パソコンなどの電子機器が不可欠となる。所属する文教科科学委員会で、パソコンやモニター、介助者や秘書の代読などが初めて認められた。
こうした合理的配慮は、船後のためだけのものではない。今後、同じように声を出せない人が国会議員になった時の「先例」となる。障害のある人が国会の場で活動するための道筋をつけたともいえる。

本会議場。車椅子のまま席につけない状況だったため急遽、改修された。さらに演壇に向かうスロープも設置されることになった。
ハード面だけではなく、

的に取り組んできた。その一つが、海外で暮らす日本人の子どもための「日本人学校」の問題だ。国内からも多数の教員が派遣されているが、新型コロナウイルス感染拡大により、400人以上が派遣見合わせになった。これにより、本来もらえるはずの手当が支払われなくなったり、赴任先の家賃や、国内待機期間中の家賃を自腹で払わなければならぬ事態となった。

当事者から相談を寄せられ、船後は文教科科学委員会で質問。大臣から「(支援を)約束する」との答弁を引き出した結果、国は新しい手当の創設や家賃負担軽減策を講ずることになった。教員の方からは「全面的に解決です。これもすべて、ご尽力のおかげでございます」と感謝の言葉が寄せられた。

「おおー!」「良い質問だ!」
船後が文教科科学委員会で質問を行った際、



「おおー!」「良い質問だ!」
船後が文教科科学委員会で質問を行った際、

他党の議員から歓声が巻き起こった。当事者ならではの視点に、党派を超えて注目が集ま

委員会質疑 どのよめきを呼ぶ

◆障害のある受験生の体制を改善!
障害のため声を出せない女子生徒が高校受験の際、普段から面識のある介助者の付き添いを希望していたのに、初めて会う教育委員会職員が付き添いを強いられた事象が発生した。女子生徒側からの相談を受け、船後

は同僚の木村英子議員とともに、文部科学大臣宛てに緊急要望書を提出した。
その後、熊本県教育委員会あてにも要望を行った。ご両親や支援者の交渉を後押ししたことにより、最終的に、女子生徒の望む態勢を実現することになった。

ていたことを証明した。昨年12月、大学入学共通テストにおける記述式試験導入(結果的に延期)で揺れていた委員会。船後は、障害者の立場から、「障害者への合理的配慮が欠けている」と問題提起をしていた。
船後は、文字盤を使い、大臣に、こう問いかけた。

「大臣、私をご覧になって、受験に際しどういう配慮を必要と想像されますか」
船後は、こう続けた。
「一人一人必要とする配慮は異なります。ですので、是非障害のある受験生一人一人に丁寧な対応をしていただきたいとお願ひ申し上げます」

障害者に必要な合理的配慮を大臣に理解してもらったため、全身を動かさず、声も出せない船後が文字通り「体をはって」示した質問だ。このやりとりは、他党の議員からも称賛された他、新聞記事にも取り上げられ、障害者の受験時における合理的配慮提供の後方支援となった。